



広島県偕行会 28年度総会

平成28年度の広島県偕行会総会は、11月25日（金）、広島国際ホテルで行われ、深澤嘉一会長（陸士61）以下、総勢12名の会員が集まりました。ほかに来賓として、陸自第13旅団長・鈴木直栄陸将補と隊友会長・寺田憲治様がお出でくださいました。写真は、国旗をバックにして整列した、それら参集者の全員です。

総会は、木船久幸事務局長（陸自68）の司会によって、国歌斉唱、三笠宮殿

下・英霊・物故会員への黙禱に続き、会長挨拶、役員紹介、綿貫昌芳副会長（陸自66）による会務報告、事務局長による会計報告が行なわれました。会長挨拶は戦前の広島偕行社、戦後の広島陸士会を経ての本会の歴史が聴きどころでした。

新役員としては、もう一人の副会長として、私、高崎禎夫（広幼48）、相談役として緒方昭三氏（陸士61）、事務局次長として三上隆之氏（陸自元3尉）が加わりました。会務報告では、広島護国神社への春秋の例大祭、終戦日の追悼式への出席、また、元自35名の現勢から当面50名目標の入会促進活動のことが重点的でした。

続いてなされた鈴木直栄第13旅団長の記念講演は、「①我が国周辺の安全保障環境、②防衛・警備事態への備え、③災害派遣等への対応」でしたが、スクリーンの映像を駆使しての、まことに説得力ある内容でした。中でも、ロシア・北朝鮮・中国の太平洋への進出を封ずるフタのような日本列島を上にした地図で、そのフタの中心がわが第13旅団の中国地方であることを目の当たりにして、みな、感銘を深くしました。

楽しく語り合った懇親会の締めくくりは、正面に進み出たの、歌の競演でした。従前会員組は、「陸軍士官学校校歌」の1番と8番を、元自会員組は、「陸自幹部候補生学校校歌」の1番と2番を、力一杯、斉唱しました。

そして、最後は、私による、今総会全参集者ならびに全会員の万歳までの長寿と、本会の弥栄を祈っての万歳三唱をもって、笑顔のうちに、散会しました。

（副会長 高崎禎夫 広幼48）

